

# 特集 膵臓がん

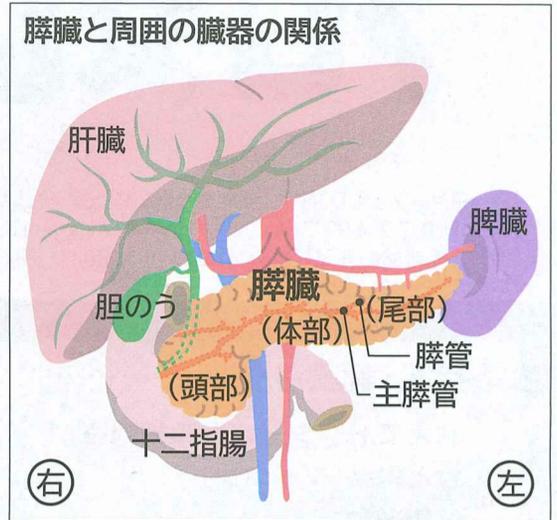
2022年7月13日 上毛新聞 情報紙 「元気+らいい」

症状が出にくく、早期発見が難しいといわれている「膵臓がん」。高齢化とともに罹患数は増加傾向にある一方、生存率や予後の改善に向けて治療技術の向上や新薬の開発が進んでいる。今号では膵臓がんや膵臓に関する病気をはじめ、発がん抑制が期待できる栄養やそれを含む食材、健康維持のための運動方法を紹介する。

のホルモンを作って血液中に分泌する「内分泌機能」の二つの役割があります。

## 20年で2倍以上

膵臓がんは、膵臓細胞から発生するがんで、外分泌系と内分泌系の大きく二つに分けられます。外分泌系のがんが95%を占め、中でも膵管の上皮から発生する膵管がんが全体の85%に上ります。国立がん研究センターによると、2022年の全国のがん罹患数予測は膵臓がんが男女計4万4500人(男性2万2600人、女性2万1900人)で6位。2000年の男女計2万45人から2倍以上に増えて



まず手術ができるかどうか検討し、がんが「切除可能」「切除可能境界(切除可能と不能の中間)」「切除不能」のどの状態か調べます。切除可能で膵体尾部にがんがある場合は、体部と尾部に加えて膵臓を切除、膵頭部を中心にがんがある場合は十二指腸



### 教えて ドクター

群馬県済生会前橋病院  
院長 細内 康男さん

膵臓は胃の後ろにある左右に細長い臓器です。体の右側から「頭部」「体部」「尾部」と分けて呼び、頭部は十二指腸に接しています。食べ物の消化を助けるアミラーゼなど

# 血糖値上昇で発見を

の消化酵素を分泌して膵液として十二指腸に流す「外分泌機能」と、インスリンなど

います。中高年以上が多く、当院では60歳以上の患者が9割を占めています。

膵臓がんは発生しても症状が出にくく、早期の発見は簡単ではありません。進行してくると、腹痛や食欲不振、腹部膨満感、黄疸、腰・背中痛みなどが起こります。近年、血糖値の上昇をきっかけに、手術可能な膵臓がんが発見されるケースが増えています。糖尿病で食生活も変わらず、太ってきていないのに血糖値が急に悪化した場合は検査したほうが良いでしょう。50代以降で、原因もなく新たに糖尿病を発症した場合も注意が必要です。

## 抗がん剤併用で改善も

治療については手術が最も効果的です。

と胆のうを含めて切除し、小腸とつなぎ合わせる再建手術を行います。

切除可能・切除可能境界の膵臓がんに対しては現在、手術の前にあらかじめ抗がん剤治療を行い、手術後にも内服の抗がん剤治療を行うことで治療成績が大幅に改善されています。当院は膵臓がんの手術数が多いハイボリュームセンターとして年間約60人の手術を行っており、手術した患者の5年生存率は51.3%にまで上昇しています。

手術できる範囲を越えて進行している場合は、抗がん剤や放射線治療が優先されます。近年は新しい抗がん剤の開発が進み、以前よりも治療効果が期待できます。また、肝臓や肺など離れた臓器に転移がない状態で膵臓の周囲にがんが進展して手術ができ

### 膵臓がんで気をつけたい症状と危険因子

症状	急激な体重減少、腹痛、食欲不振、腹部膨満感(おなかが張る感じ)、黄疸、腰や背中痛みなど
危険因子	糖尿病 食生活が変わらず、太ってもいない状態で血糖値が悪化した場合、糖尿病の原因がないのに発症した場合など
	慢性膵炎 進行して膵臓の機能が著しく低下し、消化不良を伴う下痢や体重減少が起きている状態

ない場合(局所進行膵臓がん)は重粒子線治療が適応となり、比較的高い効果が期待できます。

## 飲酒、喫煙がリスク

膵臓がんの発生リスクを高めるものとして糖尿病や肥満といった生活習慣病をはじめ、大量の飲酒や喫煙などが挙げられます。両親や兄弟・姉妹に罹患した人がいる場合もリスクが高まることが知られています。

膵臓の機能が低下する慢性膵炎も、膵臓がんの危険因子の一つです。慢性膵炎は膵臓の正常な細胞が壊れ、線維組織に置き換わる病気です。膵管の中に膵石ができるなどして膵液の流れが悪くなり、痛みが生じると考えられています。原因としては飲酒が多く、喫煙も発症や病気の進行を早めてしまうことが分かっています。進行すると

膵臓の機能が低下し、消化不良を伴う下痢や体重減少、糖尿病の発症や悪化につながる恐れがあります。喫煙や大量の飲酒を控えることが大切です。

## 早期発見が重要

膵臓がんは、他のがん比べて手術ができない患者も多く、国内のがんの死亡数が4位(2020年)と厳しい病気です。生存率や予後のさらなる改善には、手術ができる患者を増やすことが課題です。検査体制を充実させ、なるべく早い段階での発見につなげる必要があります。

まず行う検査として血液検査や腹部超音波検査がありますが、これらは地域の開業医でも受けられるところがあります。近年は開業医などでも膵臓がんに関する知識が浸透し、紹介を経てCTやMRI検査につ

ながるケースが増えています。気になることがあれば早めに受診しましょう。そして諦めずに治療に取り組んでほしいと思います。

## 健康 流儀

学生時代は野球部で汗を流していました。現在は筋力維持のため、毎日朝晩にストレッチや腕立て、腹筋などのトレーニングを欠かさず行っています。病院では健康経営を掲げているため、エレベーターを使用せず、率先して階段を利用しています。休日にはゴルフを楽しみますが、カートには乗らず、歩くよう心がけています。(細内)